令和4年度
森林・山村多面的機能
発揮対策交付金

活動事例集

林野庁

目次

掲載団体一覧 2

掲載団体活動所在地 3

活動事例 4

1 標津の森を守る会（北海道標津町） 4
『町と連携した関係人口の拡大と地域の活性化』

2 かみかわ里山ネット（北海道旭川市） 6
『生物多様性が高く蓄積量の多い混交林への誘導』

3 五日市里山を考える会（岩手県八幡平市） 8
『里山環境の保全で得られる森の恵みの活用推進』

4 枝郷地域づくり会「さとやま・ま森隊」（秋田県大仙市） 10
『安全を最優先に未経験者でも楽しく』

5 細野の山を愛する会（山形県尾花沢市） 12
『森林資源を活かして、交流人口を拡大』

6 NPO法人 馬頭農村塾（栃木県那珂川町） 14
『都市部の大学・団体との連携が関係人口を増やす』

7 NPO法人 自遊クラブ（神奈川県相模原市） 16
『連携と協働で活動の幅を広げる』

8 NPO法人 ぎふし森守クラブ（岐阜県岐阜市） 18
『地域の野生の生きものを守る森づくりを通じた森林環境教育』

9 猪之頭振興協議会（静岡県富士宮市） 20
『森づくりで生まれる企業や地域外住民とのつながり』

10 三ツ口山を守る会（三重県熊野市） 22
『「100年の森づくり」の地道な取組でよみがえる山の豊かさ』

11 五名里山を守る会（香川県東かがわ市） 24
『先人の里山づくりの復活が移住者増を後押し』

12 赤坂竹林整備組合（福岡県福岡市） 26
『荒廃竹林を国産ブランドの生産フィールドに』

13 TAKE NO EN（長崎県長崎市） 28
『竹林整備活動を通して拡がるコミュニティ』

14 上松山区（熊本県宇土市） 30
『安心して楽しく散策できる里山の環境を取り戻す』

掲載団体一覧

No.	活動組織名（活動地域）	活動タイプ					活動の工夫点				
		里山	竹林	資源	機能	関係	自治体・企業連携	情報発信	森林作業安全対策	関係人口交流人口	生物多様性の保全
1	標津の森を守る会 （北海道標津町）			●	●		●	●		●	●
2	かみかわ里山ネット （北海道旭川市）	●		●		●				●	●
3	五日市里山を考える会 （岩手県八幡平市）			●			●	●		●	●
4	枝郷地域づくり会「さとやま・ま森隊」（秋田県大仙市）	●					●	●	●		
5	細野の山を愛する会 （山形県尾花沢市）	●			●	●	●			●	●
6	NPO 法人 馬頭農村塾 （栃木県那珂川町）	●			●	●	●			●	●
7	NPO 法人 自遊クラブ （神奈川県相模原市）	●					●			●	●
8	NPO法人 ぎふし森守クラブ （岐阜県岐阜市）	●	●				●		●		●
9	猪之頭振興協議会 （静岡県富士宮市）			●			●			●	
10	三ツ口山を守る会 （三重県熊野市）	●								●	●
11	五名里山を守る会 （香川県東かがわ市）			●			●	●		●	
12	赤坂竹林整備組合 （福岡県福岡市早良区）			●			●	●			
13	TAKE NO EN （長崎県長崎市）		●			●		●	●	●	
14	上松山区 （熊本県宇土市）	●	●		●		●	●		●	●

掲載団体活動所在地

かみかわ里山ネット
（北海道旭川市）
標津の森を守る会
（北海道標津町）
枝郷地域づくり会
「さとやま・ま森隊」
（秋田県大仙市）
細野の山を愛する会
（山形県尾花沢市）
五日市里山を考える会
（岩手県八幡平市）
NPO 法人
ぎふし森守クラブ
（岐阜県岐阜市）
赤坂竹林整備組合
（福岡県福岡市）
NPO 法人
馬頭農村塾
（栃木県那珂川町）
TAKE NO EN
（長崎県長崎市）
NPO 法人 自遊クラブ
（神奈川県相模原市）
猪之頭振興協議会
（静岡県富士宮市）
上松山区
（熊本県宇土市）
五名里山を守る会
（香川県東かがわ市）
三ツ口山を守る会
（三重県熊野市）

活動タイプ　里山　竹林　資源　機能　関係

三ツ口山を守る会（みつくちやま まもる かい）

「三ツ口山を守る会」は、メンバーに林業経験者がいるほか、農業、商業、行政など業種の異なる幅広い分野に精通するメンバーで構成されています。地元の住民だけでなく、ふるさとの森林づくりに関心を持つ町外で暮らす人々も参画しています。

活動地域: 三重県熊野市
TEL: TEL: 059-237-5313

[交付金活用期間:平成 25 年度～27 年度]

活動の概要

『「100 年の森づくり」の地道な取組でよみがえる山の豊かさ』

かつて里山集落の水源だった「三ツ口山」は、戦後スギ・ヒノキの人工林として生育。皆伐された後、一旦は植栽（再造林）されましたが獣害対策が不十分であったこと、また有用な広葉樹を伐採してしまったことからススキが背丈ほどの高さまで繁茂するなど、荒廃が進行していました。

こうしたなか、20年以上前の平成13年、三ツ口山を守る会の代表は放置された森林約 45ha を自力で購入し、以前の広葉樹の森へと樹種転換することで、緑豊かな里山の生態系を取り戻すべく活動（「100 年の森づくり」）を開始しました。

未整備の森林 22ha を対象に、平成 25 年度から本交付金を活用して広葉樹の森の再生に着手しました。まず多様な広葉樹の種子を前年の秋に採取し林地に埋めることから始めました。実生苗で育てるよりも直接林地に播種（埋める）ことで発芽率の向上を促すとともに、生育に必要な地拵えや下刈り、実生苗の移植等にも取り組みました。

こうした地道な取組が実り、徐々にかつての森の姿が蘇り、活動地の一部は地域内外の人々との格好の交流の場として森林レクリエーションや森林環境教育に活用されています。

活動の成果

➢ 初期整備と播種後の保育で森づくり促進

森づくりに際しては、初期整備として獣害対策や播種後の保育をしっかりと行いました。対象地全体に高さ2mの防護柵を設置し、足下には漁網を張るとともに、直播きした種を覆土後に苗木保水剤を散布するなど、ネズミやモグラの食害対策も合わせて行いました。また、雑草木で覆われ実生が育たない場所は刈払いをして地拵えの後に、広葉樹の種を埋め、播種後5年間は保育に力を入れました。これにより獣害が著しく低下し、発芽率、活着率が向上しました。

➢ 森林環境学習の場としての活用

広葉樹林へと更新した森の一部（10ha）については、「森林空間活用林」として位置づけ、地域の人々に活動のフィールドを提供しています。毎年、地元小学生を対象とした森林環境学習の場としてたくさんの子ども達に活用されています。

皆伐後、放置されたままの状態だった活動開始前の対象地（上）と、本交付金を使って広葉樹の森を再生した同地域（下）

特徴的な取組

➢「100年の森づくり」を合言葉に広葉樹へと樹種転換

スギ、ヒノキ林から、「100 年の森づくり」を合言葉に、ケヤキ、トチノキ、クヌギ、シイ類といった高木性の広葉樹林へと樹種転換を図っています。

➢ 適地適木を念頭に在来樹種を播種して保育

生育した苗木を林地に植栽すると、側根は伸びるが主根が育ちにくかったり移植の際に主根が切断しまう危険が伴います。これに対して、現地で採取した種子を地拵え後に直接林地に埋めた方が、直根が地中深くに根付きしっかりと育ちます。このため、隣接する森林から採取した在来樹種の種子は、尾根筋の陽当たりよいところにはカシ類を、沢筋にはトチノキやケヤキをといったように、適地適木の考えのもとに、それぞれ環境に即した樹種を播種しました。

種子を埋める深さは深くても浅くても不適で、ネズミやモグラに種子が食べられないようにする工夫が必要です。一晩で全滅したこともあったことから、最適の深さを見つけるまでに随分と試行錯誤を重ねるとともに、最終的には保水剤と水溶性の忌避剤を組み合わせた液体を地表付近に散布し、その表面にネットをかぶせることで発芽率の向上に向けた課題を解決することができました。

➢ 現地の地形（起伏）に合わせた獣害防護柵の設置

過去の反省を踏まえ、獣害対策を徹底するため周囲約 5km にわたって獣害防護柵を設置しました。山全体にステンレス製の防護柵を高さ2mまで設置するとともに上段約 80cmの高さまで通電させるとともに、地表部分にも網を張り巡らすなどの工夫を凝らしました。地形が急峻で足場も悪く資材の搬入は大変重労働でしたが、転石を避けるなど現地の地形（起伏）に即して高さを加減するなど手間暇を惜しまず細心の注意を払って対策を講じたことで獣害による被害を乗り越えることができました。

獣害防止ネットの設置（上）
在来種の種を埋める作業（中央）
苗木の植栽（右）

今後の展望

- 地域住民の幅広い支援を得ることで、三ツ口山の継続的な森林整備を通じた里山環境の維持・発展
- 助成金等の利用による、地元小学校児童向けの郷土種の植栽や森林環境学習等の教育活動の実施

他の活動組織でもできる工夫点

- 中期的な視点で森林再生を進める。活着率、その後の成長具合などを勘案し、種から生育させることにウエイトを置くことも選択肢に入れる。
- 地形・地勢といった環境条件に適した場所に適切に播種し、保育期間は5年程度に留め、後は自然にまかせることで、管理負担を軽減する。
- 幼木や種を獣害から守るために防護柵・単木ネットの設置を行う。